



私、もつと輝く

春です。

4月は新しい年度が始まる節目の月。

新生活のスタート、たくさんのお会いなど、

新しい自分に出会うチャンスのときです。

自分が変われば人生が変わります。

ちよつと行動したり、

ちよつと自分の姿勢を見つめ直したりしませんか。

もつと輝く自分に出会うために。

キラキラ輝く人生を送る4人の

これが私の生きる道。

夢や目標を持って頑張っている人たちは、私たちに勇気とパワーを与えてくれます。
キラキラ輝く人生を送るために必要なものとは…
輝いている人だからこそその生き方を、ちょっと覗いてみます。



★02 大川理恵さん

Okawa Rie

Interview

元青年海外協力隊員で、エジプトの子どもたちの福祉の向上を図るNGO「オレンジプラネット」代表の大川理恵さん(北川原)。伊予市下吾川の祖母の古民家を改装し、アトリエを開いた。

伊予市下吾川の祖母の古民家を改装し、アトリエを開いている大川理恵さん。北川原。今までの人生を振り返って、改めて「ちょっとした行動や、人と人とのつながりの大切さを考えさせられた」と言います。「大学の卒業旅行中に、バックパッカーの日本人男性に出会ったんです。彼曰く、『旅行は絶対バックパッカーのほうがおもしろい。おすすめはインド』だって。さっそく次の旅行はバックパッカーでインドに行きました。私、感化されやすいんです」と笑います。

こうして訪れたインドで青年海外協力隊員が現地の人たちと笑顔で交流する姿に触れたのがきっかけで、同隊員として平成2年から2年間、エジプトの子どもたちに美術を教えた理恵さん。帰国後は、中学校で美術の講師を務めながら、使わなくなった玩具などをエジプトに送るオレンジプラネットを立ち上げました。「学校の美術の時間って短くって。もっと時間を気にせずに、子どもと物作りを一緒に楽しみたいと思うようになったんです」

いろいろなことに取り組みたい。また新たな出会いにつながるから。

ちょうどその頃、84歳で亡くなった祖母の空き屋のことも気になっていました。エジプトで古代遺跡の素晴らしさに触れてから、祖母の家が築100年の古民家だと知ったからだと言います。

「壊してしまつたら、その物はそこで終止符。その物に触れられなくなってしまう。それが耐えられなくて、ここをアトリエにすることを思いついたんです」

アトリエでは、子どもたちに美術を教え、大人に陶芸教室を開いています。

「周りの人から『目の前にあることをやるよね』って言われます。自分でもそう思う。何事もやってみなくちゃわからないから。不安もあるし、実際にやってみたら嫌なこともある。だけど、嫌なことが100あっても、1つでもいいことがあるとうれしい。これからも気楽に人に会って、いろんなことに取り組んでいきたいです。こういう取り組みが、また新たな出会いにつながると思うから」



1_ 古民家を改装してつくったアトリエ内。あたたかい雰囲気に包まれる 2_ 現在18人の子どもたちが理恵さんと一緒に物づくりに励んでいる 3_ 庭先からのアトリエ外装。庭でのびのび創作活動することもある 4_ 子どもたちが家で描いてきた絵を理恵さんがチェック



Interview

出作で生まれ育った弓達俊英さん。大学時代を神戸で過ごし、阪神淡路大震災を経験。それ以来、ライフラインに興味を持ち、卒業後は神戸で住宅設備業に携わった。その経験を生かし、心機一転、地元愛媛で会社を設立する決意をした。



★01 弓達俊英さん

Yudate Toshikide

家族の理解があるから今がある。
仕事と家庭を両立させたい。

17年間神戸で住宅設備業に携わってきた弓達俊英さん。出作。昔からの目標であった『地元で起業』を決意し、今年3月に神戸の会社を退社。4月に出作で個人経営の住宅設備業『AQ UA(テック)』を立ち上げます。

「大学1回生の時に阪神淡路大震災に遭って。お湯どころか水も出ない状況。1月の極寒の夜、自宅から少し離れた公園の水飲み場で震えながら頭を洗っ

たことを覚えています。この震災でライフラインの重要さに気づき、大学に通いながらガス工事の資格を取得しました」

大学時代から給湯器やガスの工事を請け負い、卒業後は神戸の住宅設備機器販売店に就職した俊英さん。プライベートでは大阪で出会った奥さんと10年前に結婚。4人の子どもの恵まれました。次第に地元で仕事をしたいと思うように。



1,2_ 妻のマミさんと仲良し4姉妹 未来ちゃん(7)、未和ちゃん(5)、未都ちゃん(2)、未結ちゃん(3カ月)



「僕にとっては地元でも、奥さんと子どもたちにとっては新しい土地。子どもを転校させたくなくて、Uターンの時期は長女の小学校入学に合わせました。家族みんなの理解があるから今があります」と、家族に心から感謝します。

Uターンを決めても、実際は神戸の仕事の関係で俊英さんだけは地元に戻れず、1年間は単身赴任状態が続きました。

「僕以外はすでに新生活をスタートさせています。僕はやっと今から。仕事で大切にしたいのは人とのつながり。仕事と家庭を両立させながら、まちのライフラインを支えたいです」と迎える新生活に胸を弾ませます。

Special Interview＊

東レ所属。26歳で現役を引退し、社業に専念。現在は日本バレーボールリーグ機構(Vリーグ)の職員としてPR活動や普及活動をしている。3月4日、県武道館で開催された東レアローズのホームゲームを前に松前町役場を訪問。彼女が輝き続ける理由とは…



＊04 大山加奈さん *Oyama Kana*

バレーボールに出会ったのは小学生の時です。入学時にはすでに身長が140センチもあったので、先輩に誘われて練習を見に行ったのがきっかけでした。最初は体が弱かったのですが、最初は体が弱かったが、(自分で)説得して始めました。

学生時代は常に「日本一」という目標と「オリンピックに出たい」という夢を持っていました。しかし夢を掴むこと

はたやすいことではありません。腰のケガで思うようにプレーできず、全日本の合宿から逃げ出そうとしたときもありました。ですが、仲間の励みや、夢を追いかける一途な気持ちで乗り越えさせてくれました。

しかし、腰痛は回復せず、バレーと出合っただけで人生が変わった。自分を変えるきっかけを人に与えたい。

北京オリンピックは諦めざるをえませんでした。

その腰のこともあり、昨年6月に17年間の現役生活にピリオドを打ちました。それを決心するまでには葛藤がありました。が、「バレーを普及させたい」という新しい夢が見つかったので、気持ちを切り替えて頑張っています。

今は、本当に充実しています。後悔もありません。今はバレー教室をしているときが一番楽しいです。これがもしかしら私の天職、バレーの楽しさを子どもたちに伝えるのが役目なのかと思っています。

私は体が弱くて運動が苦手だったのですが、そんな自分がバレーボールと出会って人生が変わったので、皆さんにもバレーボールやスポーツを通して、自分を変えるきっかけを与えられたら…と思っています。

人間にはその人の人生のシナリオがあります。そのシナリオは誰が作るか？自分です。すごい人に出会うことも大事ですが、すごい自分に出会うことはもっと大事です。そのためには自分の価値に気付くことが大切です。

人は行動するたびに、自分の価値を増していきま。できる人ってどんな人でしょう？例えば、物知りな人は本や新聞を読んだり、ネットなどで調べたりしている人です。料理ができる人は料理をやっている人です。色々なことができる人は色々なことをやっている人です。

「自分にはできない」「向いていない」と思う前に、やってみませんか。できる度合いは人それぞれ違ってても、やってみなければわかりません。やってやれないことは無いと思って行動を起してみましょう。行動することによって世界が広がるかもしれません。行動こそが、自分の人生を豊かにします。

「腹話術で難しいのはマ・パ・パ行。昔は言葉を置き換えなさいと習ったけど、私はそれが嫌で。必死に練習しました」

正寿さんはごまかしが嫌い。だから常に自然体です。

「気持ちの持ち方は、どんなに人形と話す先輩を見て、正寿さんは腹話術の魅力にはまっていきました。今では1級の資格を持ち、幼稚園や学校、敬老会などで、お客さんに合わせて台本を作り、大勢の人たちを楽しませています。



＊03 池田正寿さん *Ikeda Masatoshi*

短い人生、楽しまなくちゃ。自分の幸せは自分が決めるんだから。

に縋っても出てしまうもの。だから私は自然体で人と接します。私は変わり者です。でもこの変わり者のまま人と接します。例えば、誰かが苦しんでいるとき、その苦しさを代わってあげることはできないから、腹話術で人形を使って自分に語りかけるように『ちょっと離れて自分を見てみて』って言うんです。お腹が痛いときなら、『お

Interview

腹話術を始めて25年の池田正寿さん。幼稚園や学校、敬老会などで大勢の人を楽しませてきた。2月13日に開かれた「まちおこし演芸名人会」や3月20日の「徳丸文化祭」でも脚光を浴びた。



1_北伊予小学校で子どもたちに腹話術を教えたことも。お礼でもらった手紙は正寿さんの宝物 2_地元である徳丸の文化祭でも腹話術を披露。自身がおばあさん役になって、患者と医者という設定で笑いを誘った 3_まちおこし演芸名人会では、人形を2体使って一人3役をこなした

心が変われば態度も変わる。
 態度が変われば行動も変わる。
 行動が変われば習慣も変わる。
 習慣が変われば人格が変わる。
 人格が変われば運命が変わる。
 運命が変われば人生が変わる。
 つまり、人生は自分の心掛け一つです。
 大きな行動でなくても、
 ちょっとした心掛けで
 キラキラ輝ける自分に出会うかもしれません。
 ネガティブな考えでは人生はネガティブに。
 前向きに日々過ごすことで
 「もっと輝く自分」になれるはずです。
 みんなで前向きになりましょう。
 そしてキラキラ輝いて
 町全体で飛躍していきましょう。

明日からの考え方と行動を変えるためのきっかけ

私のまちのキラキラパーソン

「あの人ステキー」と言われるキラキラパーソン。あなたの身の回りにもたくさんいるのでは？

そんな人たちのステキはどこからくるのでしょうか。

広報まさきのモニターさんがお薦めする7人のキラキラパーソンにインタビュー。



舞踊をする彼女は奥ゆかしく、それでいてしっかりした技術を持つ人。人間的にステキです。（森熊代さん）



とにかく元気！夫婦で小物作りの趣味を楽しみ、いつも笑顔の二人が魅力的です。（惠原好美さん）



母と同級生の岡本さん。いつも前向きでフラダンスなど何でも楽しんで取り組む姿勢がステキです。（大野佳織さん）



大西美里さん

「せい」ではなく「おかげ」

悩み事は踊りに集中して忘れます。人とぶつかったときは「あの人のせいでこうなった」ではなく、「あの人のおかげで自分を省みることができた」と考えるようにしています。



宇津實さん・ツネ子さん

楽しいことを自分で探す

手を使ったらボケないかなと始めた趣味。二人でああでもないこうでもないと言いながら作っています。「つまらない」「暇だな」と思うより「何か楽しいことないかな」って探したいと思っています。



岡本美保子さん

頼られることが元気の源

たくさんの人を幸せにしたいです。だから自分でやりたいと思ったことも、人にやっていると頼まれたことも、できることは何でもやりたいと思います。人に頼られることが、私の元気の源です。



仕事に育児に、いつも一生懸命な彼女。明るい性格で、いつもまわりを元気にしてくれます。（山地清夏さん）



松前幼稚園の元園長先生。1番年上なのに1番元気。子どもと一緒にいつもキラキラ輝いています。（河野美幸さん）



育児をしながら幼児向けの英会話サークルを開いている彼女。同じ子を持つ親として尊敬します。（檜垣友香さん）



寺崎洋子さん

いつも感謝の気持ちを忘れずに

あいさつを大切にしています。家族、友達、地域の人…人はみんな支え合って生きています。いつも感謝の気持ちを忘れず、言葉にして素直に伝えていきたいと思っています。



烏谷良子さん

子どもの笑顔に支えられて

子どもたちからいっぱいエネルギーをもらいながら毎日遊び、考え、笑い合うときに幸せを感じます。笑顔と、輝く瞳を大切に一人一人が大きく育ててほしいので、愛情をいっぱい注ぎます。



須賀弥生さん

みんなで HAPPY になりたい

ママが笑っていると家族が HAPPY だと思うんです。だから、子どもがいるからできないって思うんじゃなくて、何でもみんなで楽しみながら一緒にできないか考えるようにしています。